

- 問1 12世紀の日本と諸外国との貿易に関する記録には、ある人物が航路や港を整備して貿易を拡大させたことが記されています。この人物が、武士として初めて就任した最高官職の名称として正しいものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
- 成人後の天皇を輔佐する関白
 - 天皇に代わって政治を行う摂政
 - 朝廷の最高機関である太政官のトップである太政大臣
 - 幕府を開くために朝廷から任命される征夷大將軍
- 問2 平安京の所在地について、近畿地方の他の歴史的な拠点と比較した説明として正しいものはどれですか。 (2024年 長野県公立入試 類似)
- 平安京は近江国に位置し、琵琶湖の東岸に沿って建設された。
 - 平安京は伊勢国に位置し、伊勢神宮のすぐ西側に建設された。
 - 平安京は山城国に位置し、大和国に置かれた平城京よりも北に位置する。
 - 平安京は摂津国に位置し、難波宮（大阪）よりも西に位置する。
- 問3 平安時代に藤原氏が行った「摂関政治」と呼ばれる政治体制の仕組みについて、最も適切に説明しているものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- 優れた武士団を組織して他の有力貴族を武力で排除し、軍事的な優位性を背景にして政治の重要ポストを独占した。
 - 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、母方の親戚（外戚）として政治の実権を握った。
 - 仏教の教えを政治の根本に据え、大規模な寺院を建立して人心を掌握することで、天皇に代わって国政を担った。
 - 地方の有力な農民に土地の私有を認め、その見返りとして徴収した多額の税を背景に、経済力で天皇を圧倒した。
- 問4 平安時代末期の東北地方において、奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂などの壮大な寺院を建立した背景として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
- 大陸との貿易によって得られた膨大な富を誇示し、宋の建築様式をそのまま日本に再現しようとしたため。
 - 鎌倉幕府の軍事的な圧力を退けるため、強固な城郭を兼ねた宗教施設を整備する必要があったため。
 - 朝廷から派遣された国司に対抗するため、独自の律令制度を確立しようという政治的意図があったため。
 - 長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏教による平和な理想郷を築こうとしたため。
- 問5 11世紀半ば、社会の乱れとともに仏教の教えが衰える時代の到来を恐れる「末法思想」が広まり、阿弥陀如来を信じて死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰が盛んになりました。この信仰に基づき、当時の摂政・関白の権勢を背景として京都の宇治に建立された建築物として正しいものはどれですか。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
- 極楽浄土の宮殿を模して造られ、阿弥陀如来像が安置された平等院鳳凰堂
 - 聖武天皇が国家の平安を祈って全国に建立を命じた、壮大な伽藍をもつ国分寺
 - 足利義満が金閣を建立したことに代表される、武家文化と公家文化が融合した北山文化の建築
 - 親鸞が念仏を唱えることで救われると説き、各地に広まった浄土真宗の本山寺院
- 問6 平安時代末期から室町時代までの歴史的な出来事を整理した時系列において、平清盛が日宋貿易を推進した時期のあとに起きた出来事として、適切なものはどれか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
- 聖武天皇の命により、奈良に東大寺の大仏が造立され、鎮護国家の政治が行われた
 - 菅原道真が、唐の衰退を理由に遣唐使の派遣を停止することを朝廷に提言した
 - 藤原頼通によって、極楽浄土の様子を再現した平等院鳳凰堂が宇治に建立された
 - 鎌倉幕府の執権である北条時宗が、モンゴル（元）からの服属要求を拒否し、元寇が起こった
- 問7 遣唐使とともに唐へ渡った僧たちが、帰国後に新しい仏教を広めた動きについて述べた文として正しいものはどれですか。 (2020年 北海道公立入試 類似)
- 最澄は比叡山に金剛峯寺を建て、天台宗を広めた。
 - 空海は比叡山に金剛峯寺を建て、天台宗を広めた。
 - 空海は高野山に金剛峯寺を建て、真言宗を広めた。
 - 最澄は高野山に延暦寺を建て、真言宗を広めた。
- 問8 中尊寺金色堂を建立した奥州藤原氏の歴史的背景と、その性質について述べた文として最も適切なものを選びなさい。 (2022年 茨城県公立入試 類似)
- 日本海側の佐渡金山を独占的に支配し、北前船を用いた交易を通じて大陸の文化を積極的に取り入れた。
 - 北上川流域の豊富な金や馬の産地を支配し、その経済力で浄土信仰に基づく独自の文化を平泉に築いた。
 - 伊勢神宮の門前町を拠点として、有力な御家人として鎌倉幕府の草創期を軍事面から支えた。
 - 出雲地方の鉄資源を背景に勢力を伸ばし、独自の青銅器文化を発展させ、中央政権から独立した自治を行った。
- 問9 平安時代中期、藤原道長や頼通の親子は、自分の娘を天皇の后とし、生まれた子が天皇になると、その外戚として政治の実権を握った。天皇が幼いときは摂政、成長してからは関白の職について行われたこの政治形態を何というか。 (2024年 青森県公立入試 類似)
- 武家政治
 - 院政
 - 摂関政治
 - 執権政治
- 問10 平安時代末期の東北地方における政治情勢と奥州藤原氏の関わりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
- 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。
 - 北条氏が執権として実権を握り、平泉に東北地方を統括するための政庁を設置して支配を広げた。
 - 平氏が日宋貿易の拠点を東北に移し、平泉を国際的な貿易港として整備することで富を蓄えた。
 - 足利氏が源氏の血筋を主張して東北地方の武士をまとめ、平泉を拠点に幕府を開いた。
- 問11 平安時代末期、平氏政権を確立した平清盛が、現在の神戸市にあたる場所に「大輪田泊」を整備して積極的に推し進めた中国（宋）との貿易について、その主な目的と影響を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2023年 北海道公立入試 類似)
- 倭寇による被害を防ぐために、明の皇帝から交付された勘合という札を用いて、正式な貿易船であることを証明させた。
 - 貿易によって得られる莫大な利益を平氏一門の経済的基盤とし、また輸入された宋銭が国内で流通するきっかけとなった。
 - 長崎の出島を窓口として、銀や銅を輸出する代わりにキリスト教の布教を伴わないヨーロッパの文化を導入した。
 - 遣唐使の派遣を継続することで、大陸の高度な律令制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇中心の国づくりを強固にした。
- 問12 平安時代初期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が東北地方への遠征を行った理由と、その際に与えられた役職の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
- 全国の戸籍を作成し租税を徴収するため、国司（こくし）に任命された。
 - 近畿地方の寺院の勢力を抑えるため、関白（かんぱく）に任命された。
 - 北九州の防備を固めるため、防人（さきもり）に任命された。
 - 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させ支配を広げるため、征夷大將軍に任命された。
- 問13 1086年に白河天皇が幼い堀河天皇に位を譲った後、上皇となっても自ら政治の実権を握り、独自の役所を設けて行った平安時代末期の政治体制を何といいますか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- 摂関政治
 - 武家政治
 - 院政
 - 親政

答え合わせ・解説

問1	答え 3 朝廷の最高機関である太政官のトップである太政大臣	平清盛は、現在の大輪田泊（神戸市）を修築するなどして日宋貿易を積極的に推進し、莫大な経済力を蓄えました。その背景には、武士として初めて太政大臣という高い地位に就き、朝廷において大きな発言権を得たことがあります。源頼朝が就任した征夷大將軍とは異なる、伝統的な官位制度の中での最高職を目指したのが特徴です。
問2	答え 3 平安京は山城国に位置し、大和国に置かれた平城京よりも北に位置する。	平安京が置かれた京都盆地（山城国）は、平城京が置かれた奈良盆地（大和国）の北側に位置しています。桓武天皇は、平城京での仏教勢力の政治介入を断ち切るために、まず長岡京へ遷都し、その後さらに条件の良い平安京へと都を移しました。難波（大阪）は平安京の南西、伊勢（三重）は南東に位置するため、地理的な位置関係を正確に把握しておく必要があります。
問3	答え 2 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、母方の親戚（外戚）として政治の実権を握った。	藤原氏は、幼少の天皇に代わって政治を行う「摂政」や、成人した天皇を補佐して政務を執る「関白」の職を独占しました。この地位を盤石にするため、天皇と血縁関係を結ぶ「外戚」の立場を重視しました。武力や宗教、経済力といった手段ではなく、婚姻関係を通じて天皇との結びつきを強めたのが摂関政治の最大の特徴です。
問4	答え 4 長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏教による平和な理想郷を築こうとしたため。	奥州藤原氏の初代清衡は、前九年の役や後三年の役という激しい戦乱を経験しました。清衡は、その戦いで犠牲になったすべての生命を供養し、阿弥陀如来の力によって東北地方を仏の住む浄土（平和な世界）にしようと思い、中尊寺の建立を進めました。この浄土信仰が平泉の文化の根幹となっています。
問5	答え 1 極楽浄土の宮殿を模して造られ、阿弥陀如来像が安置された平等院鳳凰堂	平安時代後期、藤原氏の氏長者であった藤原頼通によって宇治に建立されたのが平等院鳳凰堂です。当時流行した「浄土信仰（浄土教）」を背景に、現世に極楽浄土を再現しようとする意図がありました。国分寺は奈良時代、親鸞は鎌倉時代、金閣は室町時代に関連する事象です。
問6	答え 4 鎌倉幕府の執権である北条時宗が、モンゴル（元）からの服属要求を拒否し、元寇が起こった	平清盛による日宋貿易の推進は、平安時代の終わりにあたる12世紀後半の出来事です。一方、北条時宗がモンゴル（元）の襲来を退けた元寇は、それより後の13世紀後半（鎌倉時代中期）に起こりました。遣唐使の停止や平等院の建立は日宋貿易より前の出来事であり、日本の対外関係や文化の変遷を正しく把握することが重要です。
問7	答え 3 空海は高野山に金剛峯寺を建て、真言宗を広めた。	平安時代初期の新しい仏教（密教）において、空海は「高野山・金剛峯寺・真言宗」、最澄は「比叡山・延暦寺・天台宗」をそれぞれ拠点としました。山の名称と寺院名、宗派名の組み合わせを正しく理解することが重要です。
問8	答え 2 北上川流域の豊富な金や馬の産地を支配し、その経済力で浄土信仰に基づく独自の文化を平泉に築いた。	奥州藤原氏は、清衡・基衡・秀衡の三代にわたり、現在の岩手県平泉を中心に繁栄しました。前九年の役や後三年の役といった凄惨な戦乱を経て、戦死者の魂を平等に弔い、平和な理想郷を作ろうとする浄土信仰が強く反映されています。中尊寺金色堂はその象徴であり、内外が金箔で覆われているのは、この地域が黄金の産地であったことを裏付けています。
問9	答え 3 摂関政治	藤原氏が「摂政」と「関白」という重要な職について行った政治であるため、摂関政治と呼ばれます。院政は白河上皇などが天皇を退位した後に行った政治、武家政治は平清盛や源頼朝以降の武士による政治、執権政治は鎌倉幕府において北条氏が補佐役として行った政治です。
問10	答え 1 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。	藤原清衡は、前九年の役・後三年の役という大きな戦乱を経て、陸奥国（現在の東北地方の大部分）における支配権を確立しました。平泉は北上川の舟運を利用できる交通の要所であり、この地を拠点に金や名馬を中央の朝廷や平氏に送ることで、政治的な地位と強大な経済力を維持しました。これにより、三代にわたって東北地方に独自の平和な時代をもたらしました。
問11	答え 2 貿易によって得られる莫大な利益を平氏一門の経済的基盤とし、また輸入された宋銭が国内で流通するきっかけとなった。	平清盛は、瀬戸内海の制海権を確保するとともに、大輪田泊（現在の神戸市）を大規模に修築して、宋との貿易を本格化させました。この貿易によってもたらされた「宋銭」は、のちに日本国内で貨幣として広く普及し、貨幣経済の発展に大きな影響を与えました。選択肢にある「勘合」は室町時代の日明貿易、「出島」は江戸時代の対外政策に関する記述です。
問12	答え 4 東北地方の蝦夷（えみし）を服従させ支配を広げるため、征夷大將軍に任命された。	律令国家の体制を整えようとした朝廷は、支配が及んでいなかった東北地方へ勢力を拡大しようとしていました。桓武天皇によって征夷大將軍に任命された坂上田村麻呂は、胆沢城（現在の岩手県）を築くなどして、東北地方北部まで朝廷の支配領域を広げる役割を担いました。
問13	答え 3 院政	藤原氏が摂政や関白として権力を振るった「摂関政治」に対し、位を退いた天皇（上皇）が「院庁」という独自の役所を置いて政治を行う仕組みを院政と呼びます。白河上皇から始まり、鳥羽上皇、後白河上皇へと引き継がれ、約100年間にわたって続けられました。